

船舶事故調査報告書

令和5年4月12日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 佐藤 雄 二（部会長）
 委 員 田 村 兼 吉
 委 員 岡 本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（令和4年2月12日 16時00分ごろ～18時00分ごろの間）（死亡推定時刻：12日18時00分ごろ）
発生場所	不明（愛知県美浜町の山王川河口北北西方沖）
事故の概要	漁船第三猪口丸は、操業中、船長が落水し、死亡した。
事故調査の経過	令和4年3月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三猪口丸、0.9トン AC3-38304（漁船登録番号）、個人所有 7.39m（Lr）×1.78m×0.63m ガソリン機関、29.4kW、平成11年9月9日 第240-55954号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 69歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年12月27日 免許証交付日 令和元年6月27日 （令和7年1月31日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 4～3、視界 良好 海象：波向 南～南西、波高 約0.3m、潮汐 下げ潮の中央期、 水温 約14℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、刺し網漁の目的で、令和4年2月12日16時00分ごろ、美浜町の山王川河口の係留地を出発した。 船長の家族は、ふだんであれば日没前には戻っていた船長が連絡もなく帰宅しないので、18時00分ごろ船長に架電したところ、呼出し音が鳴るものの応答しないので不安を感じ、自宅を出て付近を探しながら本船の係留地に向かった。 船長の家族は、本船の係留地付近に船長の自家用車が停まっていたものの、本船が係留されていないことを知り、懇意にしている友人を

	<p>訪ね、船長が帰宅しておらず本船がまだ戻っていないことを伝え、友人が船長の所属する漁業協同組合に連絡をした。</p> <p>船長の所属する漁業協同組合の担当者は、船長の行方不明の連絡を受け、同組合所属の僚船に捜索を依頼し、20時56分ごろ海上保安庁に118番通報を行った。</p> <p>本船は、22時00分ごろ、主機が前進運転のまま、山王川河口の北北西方沖ののり網に無人で乗り揚げているところを僚船によって発見された。</p> <p>船長は、23時20分ごろ、美浜町富具崎港^{とくさき}北方の海岸において発見され、のちに医師により死亡時刻18時00分ごろ、死因が不詳と検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>本船に積み込まれていた刺し網は、全て仕掛けられていた。</p> <p>船長は、ふだんは救命胴衣を着用していたものの、発見時、かっぱの上下を着用しており、救命胴衣は着用していなかった。</p> <p>船長は、防水型の携帯電話を所持していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長の死因は、不詳であった。</p> <p>船長は、16時00分ごろ本船に乗船して山王川河口の係留地を出発し、18時00分ごろ家族からの架電に応答しなかったことから、この間において、落水し、死亡したものと考えられる。</p> <p>本船は、積み込まれていた刺し網が全て仕掛けられ、主機が前進運転のままのり網に乗り揚げているところを発見されたことから、刺し網漁を終えて帰航中であったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、山王川河口に向けて帰航中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶の操縦者は、暴露甲板にあっては、常に救命胴衣を着用すること。

付図1 事故発生場所概略図

